

常総市水害体験者(元東京都危機管理監)の教訓 20 箇条

- ① 何度も何度も判断情報をながさなければ、人は避難せず
- ② 勢いは津波のごとく、遠隔地でもアツという間に水浸し
- ③ 避難所は圏外へ用意すべし (浸水した避難所は機能せず・生活できず)
- ④ 公的施設は高台へ (+水害対策)
- ⑤ 老人と病人は動けず (2階に避難 のち救助、医療等)
- ⑥ 大事な物は2階へ、ブレーカーOFFにして、薬と貴重品は持ち避難
- ⑦ 電気と水は切れると心得よ (計画・訓練の前提に)
- ⑧ 片付けは体力気力、臭い・衛生対策 (自力でやることの大変さ)
- ⑨ ボランティアがいなければ片付け進まず
- ⑩ 何はなくともゴミ捨て場
- ⑪ 精神的・身体的安定の確保を優先
- ⑫ 床上浸水なら1m以上も以下も同じこと (新建材は水に弱く、一階部分は全リフォーム)
- ⑬ 我が家の保険の見直しを (アツと驚く工事見積もり)
- ⑭ 証拠写真の重要性 (法的支援制度に実証必要)
- ⑮ 公的住宅は市外がほとんど
- ⑯ 情報はわかりやすい声と紙+IT
- ⑰ 行政は復旧復興の手続きの実践的訓練を (混乱する窓口事務)
- ⑱ 有効な復興対策を (自宅再建・移転対策・産業対策)
- ⑲ 水害と地震は全く異なる災害 (体制・訓練や法的制度の見直しを)
- ⑳ 自然への畏敬の念を持ち続けること。後世に伝える努力を

熊本地震体験者(元東京消防庁職員)の教訓

- ① 水が生命線となる
- ② トイレとゴミ問題は水害も地震も同じ
- ③ 家具転倒防止より家具をなくす方が効果的
- ④ 都市ガスよりプロパンガスの方が震災に強い
- ⑤ 東京は更に深刻な被害になる
- ⑥ 支え合いが不可欠